

シリーズ「グローバル・ジャスティス」第72回 新たなモラル・コンパスを求めて－
『自壊する欧米－ガザ危機が問うダブルスタンダード』刊行記念セミナー
(開催日：2024年5月17日)

2023年10月7日より始まったイスラエルとハマスの戦闘は深刻さを増す一方である。特にパレスチナ・ガザ市民に対する攻撃と人道危機は甚大で、死傷者が増加し続けているだけでなく、国際社会が停戦と解決に向けて効果的な役割を担えておらず、パレスチナの孤立化が懸念されている。グローバル・ジャスティス・セミナーでは、この事態を重く受け止め、昨年より連続的にセミナーを行なっている。今回は、2024年4月に集英社より『自壊する欧米－ガザ危機が問うダブルスタンダード』（集英社新書、2024年）と題された対談集をご刊行されたばかりの同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科の内藤正典さんと三牧聖子さんをゲスト・スピーカーとしてお招きし、「新たなモラル・コンパスを求めて－『自壊する欧米－ガザ危機が問うダブルスタンダード』刊行記念セミナー」を開催した。

アメリカ政治外交がご専門の三牧さんからは、今回のガザ危機に関してアメリカの大学およびZ世代と呼ばれる1990年代半ば～2000年代生まれの若年集団の動きに関わるお話をいただいた。コロンビア大学をはじめとした全米の大学にガザ連帯キャンプが拡大する一方、大学が反ユダヤ主義的活動を許容していると問題視され、学長たちが連邦議会の公聴会に召喚されるなど、明らかな政治的関与が話題となってきた。アメリカのメディアにおいて学生たちは、危険な思想にかぶれた存在として描かれ、活動に関するデマを広められているだけでなく、大学執行部からも活動に関する圧力を受けている現状をご解説いただいた。

中東研究および欧州における移民社会研究をご専門とされる内藤さんからは、特にヨーロッパとイスラム諸国の政治状況について詳細なお話をいただいた。例えばドイツは、イスラエル非難そのものを許さない国家であり、一貫してイスラエルの自衛権を支持しているが、現在世界各地でパレスチナ支持を表す「川から海へfrom the river to the sea」のスローガンを唱えりと訴追される。さらにフランスやイタリアでも右翼政党が反イスラムの目標のために反ユダヤ主義を掲げることで連帯し差別を形づくっている状況がある。世界大戦後から現在に至るまで、欧米によって秩序を破壊され続ける中東地域の深刻さについて共有があった。

これまで同志社大学グローバル・スタディーズ研究科では、パレスチナ・ガザ地区やアフガニスタンなどを始め、高等教育を受けることが難しい地域からの留学生を受け入れてきた。グローバルな正義を目指す研究機関として、今後も何ができるかを考え続ける重要性を確認したセミナーとなった。

文責・細島汐華